

第2回高知県立学校の校名に関する検討委員会における各学校の学校関係者の代表からの意見聴取に向けて提出された文書

〔新たな中高一貫教育校〕

高知南中学校・高等学校 (学校関係者) 1～3頁

高知西高等学校 (学校関係者) 5～12頁

〔高吾地域拠点校〕

須崎工業高等学校 (学校関係者) 13頁


須崎高等学校 (学校関係者) 15頁



要 望 書

平成 28 年 2 月 19 日

高知県教育委員会
教育長 田村 壮児 様

住所 高知県高知市棧橋通6丁目2番1号
氏名 高知県立高知南中学・高知南高等学校
校友会会長 秋本 洋雄
PTA会長 川上 政寿

(進取会、国際教育振興会)

「高知県立学校の校名に関する検討委員会」への要望

高知県の県立高等学校再編振興計画について、平成 26 年 1 月 27 日の教育委員協議会で協議された議事に高知南中学校・高等学校と高知西高等学校の統合計画(案)が発表されました。その後、メディアによる報道もあり、以降両校の関係者ならびに諸機関ともに様々な協議検討が行われて参りました。そして、平成 26 年 10 月に、平成 26 年度から平成 35 年度までの 10 年間の県立高等学校の進行の方向性及び適正な規模と配置を示す「県立高等学校再編振興計画」と「前期実施計画」が策定されています。

両校関係者とともに、県教育委員会からの説明や教育委員協議会での討議など、協議を重ねて参りました。本校においては、全 14 回の協議会の中で直接本校に対して、5 回の意見交換を開会し、統合案に対する撤廃の意見から、統合する場合の課題と改善等についても、様々な角度から短い期間の中でありながらも協議し、最終的に上記の策定に至っています。

在校する学生や生徒は勿論のこと、校友会や P T A、進取会、国際教育振興会また教職員を含め、学校の統合という方向性は非常に心を痛める思いを抱いています。

しかし、苦渋の思いを抱えながらも協議を重ね、その趣旨を受け止め「県立高等学校再編振興計画」と「前期実施計画」による一定の方向性が議会を経て策定された結果については、南中学校・南高等学校および西高等学校の関係者として、一定の社会的な立場と常識ある行動と認識のもと再編振興計画を進め、助言していくことが求められると考えています。

そのひとつでもある学校名等の検討については、特に公平かつ中立な立場での見解や意見を述べることが、これからの高知県の教育方針としても必要だと思えます。

そこで、これから「高知県立学校の校名に関する検討委員会」で協議していく過程で、私たち高知県立南中学校・高知南高等学校に關係する諸団体をはじめとする一同の要望を提出させていただき、思いや考えを十分に図って頂ければ幸いです。

要望事項

1. 新に設置される中高一貫教育校に対しては、統合する両校の既存学校名（「南」、「西」の漢字標記や英語標記、またそれらに類する表現標記）を使用しないこと。
1. 新に設置される中高一貫教育校は、新たな学校名を要望いたします。

要望する校名（案）

1. 高知県立附属中学校・高知県立附属高等学校

1. 高知県立高知国際フロンティア中学校・高知県立高知国際フロンティア高等学校
(Kochi International Frontiers Junior & Senior High School)
(略称：KIFS of Kochi Prefectural)

1. 高知県立高知国際中学校・高知県立高知国際高等学校
(Kochi International Junior & Senior High School)
(略称：KIS of Kochi Prefectural)

要望理由

校友会およびPTAとしても、学校名については十分考慮し幾つかの案が出されました。すべてを要望することは難しいですが、その中でこれから進められようとしている新しい学校教育や国際化の流れに向けて、そして何よりも未来ある子ども達のためからの学校として、後世に伝えられる学校名を上記に標記するとともに、以下にその理由を併記させていただきます。

1. 平成 30 年度から西高敷地内への新設中学校および既存の南中学校による県立中学校の2体制がスタートします。あわせて、平成 33 年度からは南高校のグローバル教育と西高校の英語科を統合した、新たな中高一貫校を設置するという基本理念から導かれる学校名の検討をお願い致します。

1. また、新たな中高一貫校は、グローバル教育を教育活動の柱に位置付け、自らの課題を発見し判断する探求型学習や、高度な英語運用能力を養う教育活動を実施するとともに、国際バカロリアの認定に向けた取り組みを行うこと、また県下初の新たな教育環境であることから、国際的な場面で浸透しやすい学校名が望ましいと思われれます。

1. 全国的にバカロリアを実施している学校は、私立の中高一貫校が主流であり、公立学校が上記の教育方針を掲げ、国際バカロリアの認定に向けた取り組みを行っている事例がなく全国初の取り組みであること、かつ日本の学校教育の将来を展望する新たな学校として捉え、新たな学校教育環境として望ましい学校名のあり方を検討して頂ければ幸いです。なお、既存する学校名としては「国際」または「インターナショナル」という校名標記を使用している学校が多くみられます。

1. 日本国民として、与えられた等しく平等に教育を受ける権利からも、公立学校としての責務を果たす立場を考えると、現在バカロリアを実施している学校の大多数は大都市圏に集中しており、これからの地方教育や少子化に伴う地方の公立学校の改革（再編）のパイオニアとして期待されていることから、新たな学校教育環境として、ふさわしい学校名の検討が必要と思われます。

1. 高知県における就学援助について、全国的にみても困窮家庭率の高い本県においては、義務教育である中学校から高等学校への進学を断念する家庭も多くあると思います。しかし、高等学校への進学または短大や大学への進学は今や一般化されつつあります。そこで、新たな中高一貫教育校は、公立という立場とバカロリア認定大学への進路として、希望が高い存在となります。この様な観点からも、未来あるものとして、新たな学校名でのスタートを要望致します。

1. 平成27年11月29日に行われた「高知県グローバル教育シンポジウム」の開催では、多くの学識経験者より、高知県の高等学校再編振興計画における新たな中高一貫教育の取り組みに、高い期待を示すご意見が得られています。

- 大都市圏以外の地域で、地域条件（学校の所在地等）による教育の格差を解消する取り組み
- 私立ではなく公立として、経済的な条件による格差を解消する取り組み
- 大学入学におけるIB選考の導入の拡大化に向けて、地方公立校からの進学向上に繋がる取り組み
- 国際社会における企業としては、グローバル人材の育成に繋がる学校教育として非常に評価が高い取り組み

以上の内容で県民に対して期待を示されたことは、新たな学校教育として全国的にも国際的にも通用する学校名・校歌等が望ましいと思いを要望いたします。

校名は長い歳月をかけて育まれた財産です。

昭和32年4月、高知市の東で仮称のもとスタートした高校は、翌年6月に現在の高知市鴨部に移り、正式に「高知西高等学校」となりました。移転先の決定に当たっては、当時の生徒や職員、保護者が街頭署名を行うなどの尽力があり、「高知西高」の校名をようやく手にした歴史があります。

高知県教育委員会は、高知南中高側の「閉校にするなら、新しい中高一貫校になる、西高の名前を変えろ」との反対の声に押されて、西高の校名を変えようとしています。

私たちは未来を志向します。

グローバル教育を高知に根付かせ発展させるためには、「高知西高」の伝統と実績が大きな力となります。「歴史と伝統のうえに新しい教育を構築」させるためにも、「高知西高」の校名は必要です。

学校関係者への説明を十分に行わず、校名変更の手続きを進めるやり方に異議を唱えるとともに、私たちは、昭和33年の校名制定以来、半世紀を超える歴史と実績を有する「高知西高等学校」の校名存続を強く求めます。

私たちは、“全国に153校ある「西高」と共に”の気概をもって、西高の歴史と実績に拠って、西高のグローバルな事業展開を強力に支援します。

添付資料

- 1 高知県知事・高知県議会議長への「高知西高等学校」の校名存続への要望書
- 2 高知県教育委員会への「高知県立学校の校名に関する検討委員会」運営の要望書
- 3 「高知西高等学校」の校名存続への要望書
- 4 本校9期生による校友への署名呼びかけ文書

高知西高等学校の校名を守る会 代表 岡崎 豊 (高知西高等学校校友会会長)
(高知西高等学校校友会・高知西高等学校保護者会・高知西高等学校国際交流推進会)

(事務局) 〒780-8052 高知市鴨部2-5-70

高知西高等学校校友会事務局 電話：(088)840-7966

平成27年11月6日

高知県知事 尾崎 正直 殿

「高知西高等学校」の校名存続への要望書

高知西高等学校の校名を守る会

高知西高等学校校友会 会長 岡崎

高知西高等学校PTA 会長 渡田幾久

高知西高等学校国際交流推進会 会長 中内 千



このたび、「県立高等学校振興再編計画」が策定され、高知西高等学校と高知南高等学校を統合、高知西高等学校の敷地内に県立中学校を併設し、新たな中高一貫教育校をスタートさせるというものです。

統合のスケジュールによると、平成30年に高知南中学校の募集停止、同年に新中学校を開校、平成33年に高知南高校の募集停止、平成35年には高知南中・高校は閉校される運びとなります。(参考資料①)

高知県教育委員会では、生徒数の大幅な減少への対応、グローバル教育の推進、震災に強い教育環境整備等の観点から計画策定に至ったとしています。

将来発生する南海トラフ地震や津波による被害を想定するとき、生徒の命、教職員の命を守る対策として、苦渋の選択ではありますが、高知南中・高校の廃校はやむを得ないところでありませう。

高知南中・高校の生徒募集停止後、在校生は順次、高知南高校を平成35年までに卒業する予定で(参考資料②)、南高校からの西高校への生徒の受け入れがないものにも拘らず、高知県教育委員会では、高知西高等学校の校名、校歌等についての検討会を、南中高校の保護者会、校友会幹代表と高知西高校の保護者会、校友会幹代表を集めて開催しようとしています。高知西高等学校の校名、校歌変更については、到底受け入れられるものでなく、統合とは違うものの、南高校の問題と西高校の問題は別のものであります。

校名変更等の問題は、在校生、保護者、校友会、すべての学校関係者に大きな苦痛を与え、教育現場に動揺を起すこと必定です。

高知県立高知西高等学校は、昭和32年の開校以来、「HARD SPIRIT 貫徹精神」の校訓のもと、22,980名の卒業生を送り出し、本年創立59年目を迎えました。(参考資料③)

この間、「西高」の愛称で多くの県民に親しまれ、文武両道の進学校として歴史と伝統を築き上げてきたのです。

半世紀を超える歴史の中で、西高で学んだ多くの卒業生は、社会の中核として日本の国内外で活躍しています。

「高知西高等学校」の校名は、在校生、卒業生、その保護者、県民の誇りです。

長き伝統の中で培われ、社会的にも高い評価を受けている

「高知西高等学校」の校名を存続させることを切に要望します。

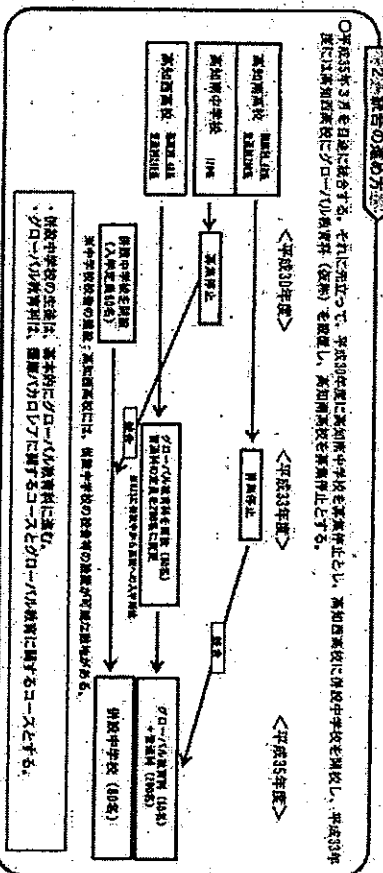
—要望事項—

- 1、高知西高等学校の校名を存続させること。
- 1、高知西高等学校の校歌を継続させること。

参考資料①

2. 統合の進め方

○平成25年3月を目途に統合する。 それに伴って、平成30年度に高知南中学校を募集停止とし、高知西高校に併設中学校を創設し、平成39年度には高知西高校にローレバ教育科（仮称）を設置し、高知南高校を募集停止とする。



参考資料②

募集停止の時期

・旧高知東区の中学校在籍者数は、平成25年3月比で、平成31年3月までに約300人、平成34年3月までに約500人と急激に減少することが推定される。
この状況に加え、南海トラフ巨大地震への対策を考えると、できるだけ早期の統合が必要である。
しかしながら、今年度の入学者や計画年度後の来年度の入学者に対しては、中学校と高校の各段階において卒業ができた状況で教育を提供する必要がある。
このことから中学校は平成30年度の入学者募集から、高校は平成33年度の入学者募集から募集停止を検討する。

	H25	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
高3	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
高2	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
高1	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
中3	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
中2	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
中1	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇

◇、○、△、□は、それぞれ在籍生を示す。
◇は、平成34年度以降の中学校入学者
○は、平成34年度の中学校入学者
△は、平成35年度の中学校入学者
□は、平成36年度以降の中学校入学者

参考資料③

沿革

- 1957年(昭和32年)
- 2月25日 - 高知県立高知東高等学校(仮称)開校準備委員会発足。
- 3月26日 - 高知県立高等学校設置条例により、高知市北新町84番地に本校の設置が決定。
1958年(昭和33年)
- 6月28日 - 高知市北新町84番地の仮校舎より隣部668番地(現在地)に移転。
- 7月10日 - 校名(仮称: 高知県立高知東高等学校)が高知県立高知西高等学校と決定。
- 1968年(昭和43年) - 外国語に関する学科として、高知県の高校としては初となる英語科を設置。

平成 28 年 2 月 16 日

高知県教育委員会
教育長 田村 壮児 様

高知西高等学校の校名を守る会
 会長 岡 崎 達
 (高知西高等学校校友会会長)
 副会長 長 濱 田 幾 久 子
 (高知西高等学校保護者会会長)
 副会長 長 中 内 千 麻
 (高知西高等学校国際交流推進会会長)

「高知県立学校の校名に関する検討委員会」運営の要望書

高知県教育委員会におかれましては、就学前教育の充実から生涯学び続ける環境づくりなど、幼児期から成年期に至るまでを網羅する、教育・文化の振興に努められていることに敬意を表します。

さて、県立高等学校再編振興計画が策定され、その前期実施計画に取り組んでいます。中部地区では、高知南中学校・高等学校と、私たちの高知西高等学校との統合をする計画であり、これまで、18回の教育委員協議会での協議を経て、両校が統合することになりました。これにより、懸案となっていた統合校の校名について「高知県立学校の校名に関する検討委員会」の設置や、校名決定までのスケジュールが示されたところです。

私たち高知西高等学校の関係団体は、これまでの教育委員協議会の協議や県立高等学校再編振興計画の策定の経過を振り返ったとき、議論や決定の経過が不透明であり、公平性に欠けている部分があると感じています。これまで高知県教育委員会が言っていたように「校名については、ゼロベースから検討する」ことが実行されるのが危惧しています。

そのため、この「校名に関する検討委員会」での協議を始めるにあたり、下記の内容を要望します。

記

1、「高知県立学校の校名に関する検討委員会」では、次の意見等を尊重し、校名についてゼロベースから検討すること。そして、関係機関及び関係者にその旨を周知徹底すること。

意見-①高知西高校の伝統の上に新たな教育内容の学校が出来るのであれば、高知西高校という校名であるべき。

意見-②新たな学校ができるのであれば、校名も新たなものにするべき。

2、校名を決定するに当たり、当該委員会において、県民の意見聴取について最適な方法を検討するとともに、委員会の審議や運営を慎重に行うこと。

3、当該委員会の審議や校名の決定に際して、透明性を確保し民主的な運営を行い、公平性・公正性を保つこと。

以上

卒業生各位

高知西高校の校名、校章、校歌、制服が消えようとしています！！

高知南中・高校が平成35年に、生徒数の大幅な減少、南海トラフ地震対策を理由に閉校されます。それに伴い、西商の敷地内に県立中学校を建設し、西商を新たな中高一貫教育校（平成30年に新中学校スカーフト）にするものです。

南中・高は平成33年に生徒募集停止後、在校生は順次、平成35年までに全員が南中・高校を卒業する予定で、西高校への生徒の受け入れはありません。

県教育委員会の言う、西と南の統合とは言えるものではありません。

県教育委員会は、南中・高側の「閉校にするなら、新しい中高一貫教育校の、西商の校名等を変えろ」との反対の声に押されて、西商の校名等を変えようとしています。

なぜ、西商が犠牲になるのでしょうか！！

私たち西商は、昭和32年の開校以来、今年4月の新入生が60期生となります。23,000名程の卒業生を送り出し、半世紀を超える歴史の中で、西商で学んだ多くの卒業生は社会の中核として日本の国内外で活躍しています。

「高知西商高等学校」の校名は、在校生、卒業生、その保護者、県民の誇りです。

1月27日九期生の会を急ぎよ開催し、現在校友会、PTA、国際交流推進会が進めている「高知西商等学校の校名存続への要望書」の署名活動に賛同し、協力することにしました。みなさま方には何卒、ご理解の上ご協力よろしくお願い申し上げます。

尚、校友会の臨時総会等も予定（日時は新聞に掲載されます）されており、こちらも是非ご参加下さい。高知県教育委員会では、本年9月の県議会、もしくは12月県議会にて、条例を改正して、校名を変更しようと考えています。

県内、県外の在住は問いません。西商関係者以外の方も結構ですので、一人でも多くの方の署名をお願いします。

又、署名簿は西高校校友会事務局にお届けいただくかご郵送下さい。

平成28年2月13日

九期生同窓会 世話人一同

平成28年2月19日

高知県教育委員会 様

須崎工業高等学校同窓会長

林 和夫

PTA会長

山中 利秀

校名に関する意見書

平成29年度から須崎工業高等学校と須崎高等学校の再編が実施され、平成31年度には両校が統合し、新しい高吾地域拠点校が現須崎工業高等学校の地に開校されることが決定されています。

この度、その新高等学校の校名を検討される委員会が開催されるに当たり、同窓会やPTAとしての思いや考えを意見書として提出させていただきます。

1 本来の思いは、平成26年3月18日に要望書として提出させていただいたとおり、74年の歴史と伝統を誇り、近年も3学級規模の生徒数を維持していることを考えれば、「須崎工業高等学校」として単独で存続してほしいというものである。

2 普通科との統合であり、「須崎工業高等学校」という校名の変更やむなしとあるのであれば、校名変更による、これまで学校が築いてきた企業とのつながりや就職希望の生徒たちへの影響を減らすための対策や支援を教育委員会として実施してもらいたい。

また、少しでも影響を減らすためにも、校名の中に「工業」や「工」の文字を含むなど、工業に関する学科があることがわかるような校名を検討していただきたい。

3 現段階では、新校名についてのコンセプト案等が示されていないため、具体的に意見が言いにくい。今後示されるとは思いますが、学校代表から意見を聞くにしても、一般から公募するにしても、何かしらの方向性(例えば「須崎」という地名は残す、場所がイメージできる、工業に関する学科の存在がわかるなど)を早く検討し、示してもらいたい。

平成28年2月12日

校名に関する検討委員会様

高知県立須崎高等学校
PTA会長 森下卓也

平成31年度開校される統合高校の校名について

校名案とその思い

校名案：「高知県立須崎総合高等学校」

「総合学科」とは、高等学校で普通科、専門科と並んで設置されている単位制の学科。生徒は用意された多様な修得内容から目的に合ったものを自由に選択することができる。「総合」とは、個々別々のものを、ひとつにまとめること。

いずれも国語辞書からの引用です。

須崎高校、須崎工業ともにこれまで長年にわたり歴史を刻み、多数の卒業生を送り出してきました。須崎という地名を校名に入れることで両校のこれまでの思いを継承し、高吾地域の拠点校として存在を表現できると考えます。

